

令和5年度 グランドデザイン案

事象や人の考えに出会い、問題を見つけて自らもとめ、むきあうことで自分を振り返りながら追究する中で、自分の考えをつたえ、まわりの友や地域とつながり、認め合う。このサイクルで自分に自信をもち、学校目標の「笑顔あふれるおかだの子」の姿が実現できる。(・授業 ○生活)

むきあう子

- ・はなす人のほうを見て、よくきこう
 - ・自分の考えは、友だちの考えと違うぞ
- クラスやおかだ小の役に立つ行動をしよう
- ・話す人が主役。話す人の方を見て、だまって聞くこと姿勢を大切にする。
 - ・事象を見る、聞く、触れる時間、そこからくらべる、気づく、予想する時間の確保。
 - ・総合的な学習の時間や生活科などを中心に自分を振り返り、問題を追究する方法を学び、生活にいかせるようにする。
- 清掃・当番活動をどうしてもやる必要があるのかやらないとどうなるのか考える機会をとり、やるべきことができるようにする。

もとめる子

- ・どうしてだろう、やってみたい
 - ・これを考えればできそうだ
 - ・がんばれば、まわりの人が応援してくれる
- うまくいなくてもねばりづよくやろう
- ・驚きや必要感のある事象との出会い。追究する内容を明確にする支援する。
 - ・子どもの願いや疑問を中心に据え、問題や課題を設定する。
 - ・自分の追究を自身で認められる、一緒に追究した仲間のよさを認められる振り返りの実施。次の意欲につなげていけるようにする。
- 問題に対してどう行動するかを考える機会をとり、自分で考えて行動することを支援する。

学校教育目標

笑顔あふれる おかだの子

～よく聴き、ほめあうおかだの子～

つたえる子

- ・自分の考えを理由とともに発表しよう
 - ・どうつたえると、あいてによくつたわるかな
- あいさつや返事をしっかりしよう
- ・根拠を明確にして自分の考えを説明する機会や話し合う場面を設定する。
 - ・伝えるための声の大きさ（速さ、間等、話し方）やわかりやすさ（内容の精選・順番や構成の工夫・語句の選択等）を考えて伝えることができるように指導する。
 - ・伝える相手のことを想像する（低学年、お年寄り、意見の違う友だちなどの立場やうれしいとき、かなしいとき、授業中、休み時間などの状態など）機会をとり、相手に合わせた伝え方を考えられるようにする。
- 気持ちのよいあいさつを進んで行き、声をかけられたら必ず返すことの指導。

つながる子

- ・友だちのおかげ分かってよかった
 - ・みんなに認められてうれしいな
- まわりのみんなの役に立っている
- 他の学年や地域の人と活動できて楽しいな
- ・授業の中でお互いの意見を認められたり、違う意見を受け入れそのよさを感じられたりできるように支援する。
 - ・仲間と協働した学びのよさを味わえる場面の設定。
- 集団の中での貢献を認めていく支援。
- 縦割り班活動、姉妹学級交流等、異学年集団をもとにした活動の設定。
- 地域ボランティア等の活用による地域の方と関わる場の設定
- 学校・地域・保護者の三者が願いを共有して、おかだの子を育てていく意識の向上。